

日本海海戦百二十周年記念祝賀会 会長あいさつ

本日は、宮島 佐世保市長、福田 佐世保地方総監、並びに県議・市議会議員等 多数のご来賓をお迎えするとともに、現役隊員の皆様を交え、かくも盛大に祝賀会を開催できることは、誠に喜ばしいことであり、改めて感謝申し上げます。

さて、今月初め、知日派で知られる国際政治学者 ジョセフ・ナイ ハーバード大学 名誉教授がご逝去せいぎよされました。ナイ氏は、より強靱な抑止力や同盟関係の緊密化を図るためには、軍事力だけではなく、「ソフトパワー」との均衡きんこうが極めて重要であると唱え、冷戦後の日米同盟の再定義を牽引けんいんされました。「ソフトパワー」とは、威嚇いかくによる強制や金銭的な報酬ではなく、他者を魅了みりょうすることにより相手を動かす力のことを指し、「日本のソフトパワー」を讃え、新たな国際秩序構築の力ギになると示唆しそされています。

慶應義塾長を歴任し、皇太子明仁親王の教育責任者も務められた小泉信三氏は、日本海海戦から約六十年が経過した昭和四十年、かねてより日本人が体現してきた「自重じちようの精神」が崩れ去りつつあることに警笛けいてきを鳴らしています。

「自重」とは、「自らを重んじ品性を保ち、卑下せず、尊厳を保つこと」、「弱きものに不遜となり、強きものに卑屈になることを戒める言葉」としても引用され、「日本人のソフトパワー」の源泉に相通じるものがあります。

小泉氏は日本海海戦の意義を説き、「一国民が正しい自重の精神を堅持することは、他国の侮りを防ぐのみでなく、世界の国民と国民、国と国との関係を正常で健全なものとする上において欠くべからざる要件である。」と諭しました。

この忠言から、更に六十年が経過し、今年は、戦後八十年を迎えます。本日は、「式典」で、東郷元帥の偉業に思いを馳せ、「講演会」では、抗えない歴史の大渦を学ぶことが出来ました。これら一連の行事が、「日本人の矜持」を呼び覚まし、この国を護り抜く決意を新たにする一助になれば、主催者としてこの上ない喜びであります。

この祝賀会が、その気概の更なる醸成に繋がることを祈念し、ご挨拶に代えさせていただきます。

本日は、ご参会頂き、誠に有難うございました。

令和七年五月二十四日

公益財団法人 水交会

佐世保支部 会長 梅崎 時彦